

平成30年度 狭山市立御狩場小学校 学校関係者評価報告書

1 本年度の重点目標

【重点】

①学力の向上 ②豊かな心と規律ある態度 ③体力の向上 健康教育の推進

【教育活動の基盤】

- ①連携・協働 [ひらかれた教育活動、特別支援教育の充実・連携、小中一貫教育の推進、家庭との協働、地域との連携]
- ②安全・安心 [居場所のある学年・学級経営、施設設備の安全確保、清掃指導の徹底、掲示教育・学校緑化、安全・防災教育の充実、危機管理体制の整備]

2 本年度の経営方針

・全教職員の創意を活かし、活気と潤いのある学校づくりに努める。
組織が生きて働く(団結) 磨き合う(信頼) 潤いがある(感謝)

3 自己評価結果

達成状況 A:達成している B:概ね達成
C:やや達成不十分 D:達成できていない

評価領域	No.	評価項目(重点目標)	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			達成状況	説明・改善の方策	
経営方針・ 組織・ 教職員	1	○子どもを知り、よさを引き出す教育活動(児童が学校に楽しく通える。) 共学・共遊	A	児童は、概ね「楽しく学校通えている」が、児童及び保護者アンケートにおいて、1割前後が否定的な結果となった。Q-Uテスト等を活用し、その結果も参考にしながら一人一人が学校生活に意欲をもって取組、学級集団や友人関係において満足感を持てるようにしていきたい。	・小規模校の利点を生かし、学校全体で子どもたちを見守る姿勢が感じられます。 ・校務の効率化を継続推進して、教職員が子どもたちと関わる時間を増やして行ってほしい。
	2	○子どもとともに活動する教師(清掃、遊び) 共働	B	清掃指導や授業開始時刻の順守など、職員が率先垂範を意識して行動している。	
	3	○効率的な校務運営で教職員の健康推進 効率的効果的な会議、研修の推進	B	通知票・指導要録の電子化で、成績処理の事務作業を効率化できた。 職員会議のペーパーレス化が定着した。	
	4	○組織的な教育活動 学年組織・教科等部会組織を活かす	B	クラス数の減少に伴い、職員数も減少していく中で、より効率的に教育活動を行えるよう、組織の見直しを図っていく。	
	5	○『見通し・見届けの教育実践』 先を見通した計画、目標の明確化 活動の見届け、評価	B	教育計画の実施状況を定期的に確認し、計画の見直し・変更をして充実を図る。 ・教職員アンケート実施(年2回) ・保護者アンケート実施(年1回) ・児童生活アンケート実施(年2回)	
【重点】① 自ら学ぶ子 学力の向上	6	○日々の授業の充実 ねらいを明確にした授業 言語力の育成 (まとめを自分の言葉で)	B	保護者アンケート「学校(教員)は、わかりやすい授業に努めている。」では、94.7%が肯定評価であった。教職員の自己評価では、「ねらいを明確にした授業」は実践できているが、「児童の言葉でまとめる」にまだまだ課題が残っている。さらなる授業改善が必要である。	・基礎的基本的な学力の定着に、一層力を注いでほしい。また、学力向上に向けて、さらなる工夫した取組をお願いいたします。 ・家庭学習の定着をもう一步進めてほしい。 ・「落ち着いて話が聞ける」力を確実に育てて行ってほしい。
	7	○基礎基本の確実な定着 国語定着度確認 (90点以上の児童の割合) 算数定着度確認 (90点以上の児童の割合) 1年:80% 2年:70% 3年:60% 4~6年:50% 最終 全学年95%以上	B	最終的に、90%以上の正答率の割合は目標値に到達できなかった。 基礎基本の確実な定着のため、今年度配置された学力向上プロジェクト教員を中心にT Tや少人数指導等、指導体制を工夫していく。	
	8	○学習意欲の向上 個に応じた指導・支援の充実 ○○チャレンジの充実	B	・児童学校生活アンケート「勉強が分かる・どちらかという分かる」 1年:89%,2年:93%,3年:78% 4年:92%,5年:89%,6年:89% 意欲向上を図り主体的に学べるように教育活動の改善を図りたい。	

【重点】② 仲よくする子 豊かな心と 規律ある態 度	9	○人権意識の高揚を図り、いじめ ・不登校の解消 丁寧な言葉遣い・温かい言葉かけ	B	教師が率先して言葉遣いや温かい言葉かけを 実践するようにしている。保護者アンケートで は、92%が学校の取組に肯定的な意見であっ た。 まだまだ乱暴な言葉も見られるので、継続して 指導していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には問題ないと感じます。ぜひ、継続、維持、向上をお願いします。 ・低学年のうちから、「人を傷つけることはいけないこと」ということをしっかりと意識させてほしい。 ・家庭への啓発活動をすすめ、保護者とともに考えていってほしい。
	10	○自他を尊重する温かい心の育成 道徳授業の充実・全校公開 本とのふれあい	B	12月の第2土曜日に全校で道徳の授業を公開した。しかし、参観率が低く(38%)家庭と連携できるような工夫した取組が必要。また、心の育成に関する保護者アンケートでは、88.4%が肯定的な意見だった。本の読み聞かせ・お話し会等、図書ボランティアさんの協力で、本に親しむ活動ができた。	
	11	○規範意識と順法精神の育成 授業規律、基本的生活習慣の確立 まじめな生活態度の確立	A	授業規律の確立に向けては、全教職員で取り組んでいるが、学年によって差があり、さらなる工夫した取組が必要と感じる。全校で徹底できるように、学校の決まりの確認と、守ろうとする態度の育成を図っていく。	
【重点】③ たくましい子 体力の向上 健康教育の 推進	12	○体力の向上 運動量を確保した体育授業の展開 行間運動の充実、外遊びの奨励 体力向上奨励種目への取り組み・ 検証	B	新体力テストでは、男子が30/48、女子が33/48の項目で県平均を上回ることができた。体育の授業を充実させ、運動量の確保に努めてきた。また、業間運動では、マラソン・ドッジボール・縄跳びなど、児童が進んで運動に取り組めるような環境作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に関しては、努力が成果として表れています。今後も、弱い所を明確にして、改善を進めていってほしい。
	13	○健康教育の推進 食育の推進 虫歯予防の推進	B	食育指導を全学年で実施した。虫歯予防については全校で指導を行った。給食後の歯磨きが徹底しきれなかったため、さらに進めていく。永久歯の齲歯処置率は87.5%(未処置3名)	
【基盤】④ 連携・協働	14	○ひらかれた教育活動 学校応援団 小中連携、幼保との連携	B	学校応援団の支援で、充実した教育活動が展開できた。(保護者アンケートでも、97.3%が肯定的な意見だった)体験入学や交流給食・小中での学習規律の統一など、幼小及び小中連携の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域家庭とのつながりを大切に今後も取り組みをお願いします。 ・地域で子どもを育む上で、今後も一人でも多くの協力者を得ていきたい。
	15	○家庭との協働 学習習慣の確立 忘れ物をなくす 保護者の参加機会の拡充	B	家庭学習の充実のために「家庭学習のてびき」を全家庭に配布し、学年別に目標時間を設定して取り組んだ。土曜授業日の平均参加率は、49.9%であった。より保護者が参加できるような工夫をしていく。授業参観の平均参加率77.0%、懇談会の出席率61.1%。前年度より6~8ポイント上昇した。	
	16	○地域との連携	A	学校応援団を中心に、自治会や民生委員の皆様にご協力をいただいている。また、登下校の見守りを毎日行ったださり、安全な登下校に寄与していただいている。	
【基盤】②安全・安心	17	○施設設備の安全確保 (安全点検)	A	日常の安全点検の実施、危険箇所への速やかな対応に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の中で、過去の(他地域の)事例を検証し、同じ問題を発生させないようにお願いします。
	18	○清掃指導の徹底	B	縦割り清掃を実施し、全教職員で指導にあたった。進んで清掃する意識をもっともたせたい。	
	19	○安全・防災教育の充実 (危険予測能力) 「自分のいのちは自分で守る」の徹底	B	防災士を招き、学校現場でできる防災について研修を行った。交通安全教室・避難訓練などを通じ、「自分の命は自分で守る」意識を常に指導している。	
	20	○危機管理体制の整備 地震発生時の対応、不審者への対応等、 危機管理体制の見直しと充実 緊急メールの態勢整備	A	月に一度、一斉下校を行い、いつでも速やかにできるようにしている。年度当初に、危機管理マニュアルの確認と各自の役割を確認した。緊急メールの登録率は99.2%であった。	